

# モンゴル国公務員獣医師及び民間獣医師実践能力強化プロジェクト

## プロジェクトニュース 2021年7月

### 【研究・研修グループの活動について】

当プロジェクトでは、北海道大学獣医学部、同人獣共通感染症国際共同研究所、帯広畜産大学及び酪農学園大学の教員をアドバイザーに迎え、カウンターパート4機関（中央獣医ラボラトリー、獣医学研究所、獣医学部、ウランバートル市獣医局）で、研究・研修グループを形成し、以下の各テーマについての研究や公務員及び民間獣医師に対して講義及び研修を行っています。

1. モンゴルで重要な家畜等の感染症に関する研究・研修
2. 食品及び環境衛生に関する研究・研修
3. 家畜衛生データ収集と疫学解析に関する研修
4. 獣医臨床技術向上に向けた研修
- 5.

モンゴル家畜の重要感染症である羊のマエディ・ビスナ病<sup>1)</sup>の研究・研修グループ<sup>2)</sup>は、6月下旬に獣医学部（SVM）及び遊牧民が私有するモンゴル種やバルガ種の羊、山羊から血液採取したほか、ゴビスンベル県で飼育されているスンベル羊（カラクール種、1970年代にウズベキスタンより輸入され繁殖が始まった）から、計120検体の血液サンプルを採取しました。

また、モンゴルの集約畜産農場における難治性感染症（牛白血病、牛ウイルス性下痢、ヨーネ病<sup>3)</sup>等）の研究・研修グループ<sup>4)</sup>は、トゥブ県のモンゴル牛を飼育している2つの農場及び2013年にフランスから輸入され、「Nuudelchin」農場で飼育されているモンベイルード牛とその後継牛から計130検体の血液サンプルを採取しました。

---

1) マエディ・ビスナ病：マエディ・ビスナウイルス感染を原因とするヒツジやヤギの感染症。呼吸器や脳炎症状が起こる。

2) グループリーダー：Tumenjargal.S (SVM), Altanchimeg.A (IVM)  
メンバー：Davaasuren.N (SVM), Ochibayar.E(SVM), Erdene-Ochir.Ts(SVM), Ariuna.Ts(SVM), Mungun-Ochir.B (IVM), Baatarjargal.P(IVM), Nyamdolgor.U(IVM), Soyolmaa.G(IVM), Yadamdorj.E(UBVO), Bilguunchinzorig.G(UBVO), Batkhongor.A(TVO), Odonpurev.L(TVO), Tserenjav.J(SCVL)  
アドバイザー：Dr. Yoshihiro Sakoda, DVM Lab. Microbiology Faculty of Veterinary Medicine, Hokkaido University  
Dr.Takashi Kimura, Laboratory of Comparative Pathology, Faculty of Veterinary Medicine, Hokkaido University

3) ヨーネ病：牛、めん羊、山羊などの反芻（はんすう）動物がヨーネ菌という抗酸菌に感染して起こる病気。慢性の頑固な下痢を起こす。

4) グループリーダー : Ochirhuu. N (SVM)

メンバー : Odbileg. R (IVM), Ulziisaikhan.G (IVM), Gantumur.Ts (UBVO), Delgermaa.B(UBVO), Bayarmaa(UBVO), Delgerzul.G (SCVL), Nyam-Osor.P(SVM), Burenjargal.S(SVM), Sandagdorj.B(SVM), Gerelt-Od.S(SVM), Baigalmaa.T(SVM)  
アドバイザー Dr. Satoru Konnai, Associate Professor of the Laboratory of Infectious Diseases in Graduate school of Veterinary Medicine, Hokkaido University



研修研究グループのリーダー達



スンベル羊から血液サンプル採取している様子



獣医学部の家畜



モンバイラード牛より血液採取している様子